

月を示し、龍朔元年十月の條に「回紇酋長婆閏死」と記せり、通鑑の此の年月は如何なる資料に依據したるものなるかは明かならざれども、舊唐書廻紇傳には「龍朔中婆閏死、妹比粟毒主領廻鶻、與同羅僕固犯邊、高宗命鄭仁泰、討平僕固等」と見え、而して新唐書本紀には鄭仁泰が此の征伐を命ぜられたるを龍朔元年十月の事とし、舊唐書契苾何力傳にも、亦此の叛を以て同年のこととせり、されば比粟毒が廻鶻僕固同羅の諸部を率ゐて邊を犯すに至りしは龍朔元年十月以前の事にして、從て龍朔中と記さるゝ婆閏の死も、此の時以前のものと見ざる可らず。

婆閏に繼ぎしものは舊唐書には前記の如く妹比粟毒と見え、冊府元龜繼襲篇には姪比粟毒、新唐書回鶻傳には子比粟、唐會要には子比來栗とし、通鑑の考異には「新書傳云、婆閏卒子比粟嗣、今從舊傳」として姪比粟毒と記せり、此の中今本(乾隆四年校刊)舊唐書に妹とあるは、唐時女子の部酋の立てられたるが如き類例の求む可らざるよりするも、必ず姪の誤にして、通鑑考異の記する所によるも舊本には姪と記され、冊府元龜と同様なりしこと疑無し、而して今本新唐書回鶻傳の比粟も通鑑考異によれば又舊本には比粟と記されしものにして、舊唐書及び冊府元龜に同様に粟字を用ゐたるよりすれば、比粟を以て正しとすべし、從て唐會要到比來栗と記さるゝ粟字も粟字の誤と見るべく、而して其の來字は思ふに衍字(二八)に外ならざるべし、果して然らば婆閏に繼げるものは姪比粟毒か子比粟かの何れかに外ならざらん、Schlegel(二九)氏は比粟を以て Bilir-wissend なる名を寫したるものと見たれ共、此の如きは只だ此の名の邊裔典に出でたる形のみを知りて、之に類似の古代トルコ語を配せんとしたるに止れるのみならず、Bilir なる形が人名として果して用ゐらるべきや否やも疑問に屬す、Chavannes(三〇)も舊唐書廻紇傳の一節の翻譯に於て、只だ之を Pi-sou-tou(三〇)と音譯したるのみにして、何等の考を附せず、今は此等の兩者の何れが正しきかに就きては